

北村賞

我が国における公園緑地行政のパイオニアとして、長年、公園緑地に関する理論の研究と行政実務の指導に尽くされ、また日本公園緑地協会の実質的創設者として協会の育成と発展に大きく貢献された北村徳太郎先生の業績を称えるため、日本公園緑地協会の中に「北村賞」が設けられています。

この表彰制度は、北村先生が昭和39年5月8日にご逝去されたあと、その業績を記念する事業の一環として、昭和43年3月社団法人日本公園緑地協会において「北村賞及び同基金に関する規程」及び「北村賞実施要領」を定め、公園緑地分野の調査、研究、計画、設計等に著しい功績のあった方を表彰する制度です。

なお、この表彰は、昭和45年度から隔年ごとに実施してきましたが、昭和63年度からは毎年表彰を行っております。

第38回北村賞受賞者（敬称略・五十音順）

① ^{かつの}勝野 ^{たけひこ}武彦（71歳）

元 日本大学生物資源科学部教授

現 日本大学名誉教授

受賞理由

氏は、今日的課題である生物多様性保全の第一人者として、希少生物の保全手法、ビオトープ及びエコロジカルネットワーク整備手法の重要性を明らかにするとともに、公園緑地、都市及び農村等の整備に際してその実現化を図られた。氏は、学術研究の深化とその研究成果の実践を通じて、わが国の自然環境の保全・再生・創出に新たな視点をもって大きく貢献され、また社会で活躍する多くの人材を輩出されており、その功績は多大である。

② ^{かわじり}川尻 ^{ゆきよし}幸由 (67歳)

現 (一社) ランドスケープコンサルタンツ協会専務理事
(株)エイト日本技術開発 常勤監査役

受賞理由

氏は、40年以上に亘り、建設系コンサルタント会社に在籍しながら、ランドスケープアーキテクトとして主に大規模公園の調査・計画・設計・監理においてその手腕を発揮している。社業の傍ら、平成22年よりランドスケープコンサルタンツ協会の理事として事業の運営に積極的に参画し、現在は専務理事として統括的立場で協会の発展に寄与している。同協会が創設した、登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格制度の資格者増大のため、若年層に向けた受験支援対策を図るなどその活躍はめざましい。

③ ^{たちばな}橘 ^{としみつ}俊光 (63歳)

元 兵庫県県土整備部参事 (景観・プロジェクト担当)
現 国営明石海峡公園管理センター長
(公財) 兵庫県園芸・公園協会理事

受賞理由

氏は兵庫県入庁以来、40年間に亘って公園・緑地行政に携わり、この間建設省の派遣もあり、その功績は全国的に残されている。特に、国営明石海峡公園の整備では、位置や区域など、その立ち上げから整備や管理までの手法等、完成に導いた功績は大きい。また、兵庫県立淡路景観園芸学校の設立や国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」開催などソフト面における公園事業にも大きな成果をあげている。

④ ^{のじま}野島 ^{よしてる}義照 (67歳)

元 建設省建築研究所都市防災構造研究室室長

現 東邦レオ株式会社緑化関連事業部東京事務所顧問

受賞理由

氏は多年に亘り、みどりと都市防災に関する研究に取り組み、その成果をもって全国各地で、みどりを活かした都市防災構造づくりに尽力すると共に、都市における植生からの蒸散等による建築物の温度上昇抑止についての研究・実証により、緑化行政における屋上緑化や壁面緑化の推進に大きく寄与した。

⑤ ^{よした}吉田 ^{てつお}哲夫 (65歳)

元 横浜市都筑区長

現 公益財団法人横浜市緑の協会理事長

受賞理由

氏は横浜市緑政局(現環境創造局)公園部長、同みどりアップ推進担当理事、都筑区長、公益財団法人横浜市緑の協会理事長などを歴任。山下公園、横浜公園、横浜動物の森公園(ズーラシア)など、横浜を代表する公園の整備・管理運営や緑化推進に尽力した。特に樹林地保全等を目的にした「横浜みどり税」の導入、公園事業での歴史的建造物の保全活用、全国初の立体都市公園「アメリカ山公園」などの先駆的な取組に顕著な貢献をした。